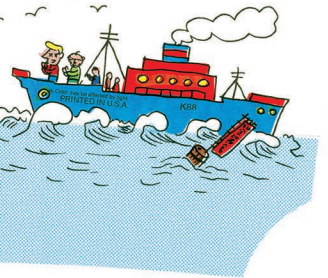


エブリバデイ、コンピラサン。

潮にまかせた流し樽。
 このお祭りの沖あけ、海へ投げ流し樽。
 樽を立て、白い旗には奉納金刀比羅宮の華あが。
 拾った漁師が、船主かわって、お祭りをするらしい。しんじりには
 昔から、絶えることなくつづいています。



あー、ヨシと...



海の男の竜神信仰。
 瀬戸内の海で暮らす男たち。
 その信仰を集めて、お祭りは、
 竜の形を背にした奉納金刀比羅宮
 人々の祈りは、船旅の無事と、
 大漁です。



こんぴら舟々
 シンララシラ

天狗



世の中に噂ひろげた修験道。
 その昔、天狗が住むとされた象頭山。
 天狗の面を背中にかけた修験者たちの目からへ
 語りつがれた金刀比羅信仰。
 噂は、日本の国をすまする。

昔もあつた定期便。
 大阪の造船場から、こんぴら船での、
 客を運んだ金刀比羅船。朝夕に出航。
 定期便に乗った客たちは、思いおもに、
 賑々しく、船旅を楽しんだとか。

江戸の昔、飼い犬が
 こんぴら参り。

こんぴら参りの袋を背に、飼主にかつて犬が、おびへ、
 首に巻いた袋に、初穂料と道中の食費を入れ、飼主が
 旅の人に託した。無事代参をすまると、ふたたび旅をして
 家族のもと、ついで頭から、こんぴら参りの犬を
 「こんぴら狗」と呼ぶようになった。



ワンワンワン



宇宙を飛んだ秋山さん。
 日本人で初めての宇宙飛行士秋山豊彦さん。
 宇宙船「ソユーズ」に乗って飛んだ秋山さんの胸には、
 こんぴらのお守りがありました。



思いを込めて、絵馬奉納。
 力強い大きなお守りを、絵馬奉納。
 絵馬奉納の歴史は、古く、資料館にほごれされ、
 気持ちを込めて奉納された、大小さまざまの絵馬が数多い。

こんぴら参りの
 長い、おしり、
 ごも、おもしろく、嬉し
 石段。



石段。



時代を感じる
 優雅な臍鞆。
 千数百年の伝統を今に伝える、臍鞆の行事。
 紫、緑色の衣裳をまとい、
 烏帽子姿も、うわしく、アライアリの
 か、江戸式、意気な、敬に、参る。
 *金刀比羅宮の御祭は、五月五日と七月七日に
 行われ、一般公開される。



長いながい石段絵巻。
 本宮まで石段は長い。
 上り下りあけて、道のりは、
 胸突入りに、息を吐き、袖ひらき、
 上り下り、人々、おしり、おもしろく、
 七八段目、石段を数え、やむ、本宮。
 汗が、風にと、祈る、持、清々。



讃岐 金刀比羅宮